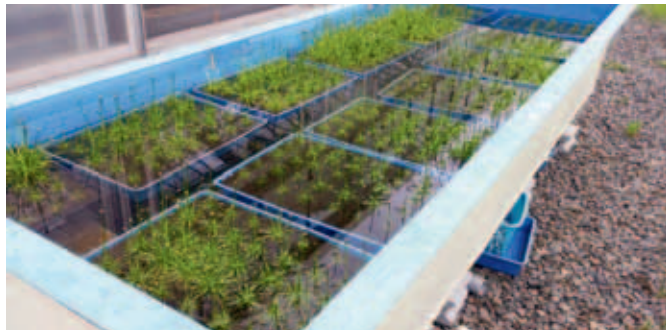


コシガヤホシクサの野生復帰を目指して

種子を増やすための栽培

コシガヤホシクサは、現在環境省のレッドリスト*において「野生絶滅」とされています。越谷市では、国立科学博物館筑波実験植物園から種子の提供や技術指導を受けながら、平成23年から越谷市農業技術センターにおいてコシガヤホシクサの栽培を行っています。この栽培によって、「コシガヤホシクサという種」を保存するとともに、野生復帰の取り組みに必要となる種子の増殖を行うものです。



▲コシガヤホシクサの水槽栽培の様子

*環境省レッドリストとは
環境省が、野生生物の保全のために、絶滅のおそれのある種を的確に把握し、一般への理解を広める必要があることから作成・公表している、日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト

これまでの実績

コシガヤホシクサは、水草の一種なので、水槽を使って育てています。2月に種をまき、春先に発芽します。その後8～9月に花をつけ、冬に種子をつけて枯れるため、種子を12月頃に採取しています。毎年、まいた数の数十倍の種子を採取できており、この種子は、翌年の栽培や、葛西用水路での播種実験に使われています。

これからの取り組み

コシガヤホシクサは、春に発芽し、生長して種子を実らせ、冬に枯れる「一年草」で、種子は長期保存ができない性質です。種子を残すためには、毎年栽培を続けなければなりません。市では、今後も農業技術センターでの栽培を続けていく予定です。

一年で枯れちゃうんだ



野生復帰に向けた播種実験

*播種…種をまくこと



▲今年の播種実験の様子（4月）

越谷市では、「越谷」の名を持つ貴重な植物であるコシガヤホシクサを越谷で野生復帰させる取り組みを進めています。市では専門家や関係機関と検討・協議を進めた結果、野生復帰の候補地を葛西用水路と定め、平成26年から、野生復帰に必要となる生育条件のデータ収集などのために、播種実験を行っています。

これまでの実績

これまでの播種実験では、2月から3月に用水の川底に種をまき、その後4月に用水が入る前には発芽しています。用水が入った後も水中調査を行い、6月頃までは生存を確認していますが、その後は見られなくなり、花を咲かせることはできませんでした。

今年は、今までより生育しやすい環境を整え実験を行った結果、花をつけることに成功しています。

一方、葛西用水路の駅前通りの上流と、しらこぼと橋の上流の2カ所のショウブ田の一部に整備した見本園では、多数開花し、種子を残すことができています。



▲見本園の様子（6月）

学校での栽培やPRの取り組み

コシガヤホシクサを多くの皆さんに知ってもらうため、市内の中央中学校、東中学校などで栽培をしています。また、毎年夏から秋の時期の開花期間中には、市役所ロビーやアリタキ植物園、児童館などで特別展示を行っています。



発見80周年

コシガヤホシクサってなあに？

みんなで学ぼう！

今から80年前、昭和13年に越谷で発見された水草「コシガヤホシクサ」。越谷の名を持つ唯一の植物です。残念なことに、今は野生絶滅の状態であり、最後の生息地の砂沼（茨城県下妻市）と、越谷市の葛西用水路で野生復帰のための取り組みが行われています。



コバちゃん



コバちゃん



キク姉さん

コシガヤホシクサとは？

コシガヤホシクサは、ため池の岸边や河原、水中に生育するホシクサ科の水草の一種です。

8～9月に白い星型の小さな花をつける植物で、越谷で発見されたことから、「越谷星草」という名前がついています。

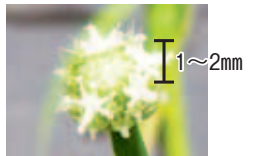
「干し草」ではないよ！



草の大きさは十数センチほどで、毎年春に発芽し、冬に枯れて種を落とします。



▲コシガヤホシクサ



▲拡大写真。白い星型の小さな花をつける



▲実物大。1円玉を置いて比べてみよう

市制60周年記念

発見80周年記念シンポジウム

越谷で発見された地球の宝物「コシガヤホシクサ」

★ご来場の方に記念品として「コシガヤホシクサ学習帳」をプレゼントします

〈日時〉9月22日(土)、午後1時30分から
〈場所〉中央市民会館 劇場
〈内容〉講演と展示



- ▷「絶滅危惧種を守るために」…関東地方環境事務所野生生物課 津田 麻子
- ▷「越谷生まれの“地球の宝物”を守る～コシガヤホシクサ野生復帰プロジェクト～」…国立科学博物館研究主幹 田中 法生
- ▷「葛西用水路の80年のうりかわり」…NPO法人越谷市郷土研究会 渡邊 和照
- ▷「コシガヤホシクサを再び越谷に」…越谷市環境政策課 五十嵐 治
- ▷「水深1mの冒険！コシガヤホシクサ探索日誌」…NPO法人アークアキャンブ 永田 翔

■栽培中のコシガヤホシクサ、野生復帰の取り組みや調査の様子などの展示も行います

問合せ 環境政策課 ☎963-9183

越谷での発見から野生絶滅まで

コシガヤホシクサは、昭和13年に旧越ヶ谷町の元荒川付近で発見され、翌年新種のホシクサとして発表されました。このとき、発見地にちなんでコシガヤホシクサと命名されましたが、その後越谷市周辺では見られなくなりました。

昭和50年には、茨城県下妻市の砂沼という農業用のため池で再発見されましたが、ため池の環境の変化により平成6年に絶滅してしまいました。しかし、残されていた種子から、国立科学博物館筑波実験植物園などの関係機関により、現在は砂沼と越谷での野生復帰の取り組みが進められています。



一度は絶滅してしまっているの

シンポジウムに行ってみよう！



▲昭和13年10月24日、旧越ヶ谷町元荒川で採取されたコシガヤホシクサの標本